



## 平成27年3月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

平成26年7月29日

上場会社名 東邦チタニウム株式会社 上場取引所 東  
 コード番号 5727 URL http://www.toho-titanium.co.jp/  
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 加賀美 和夫  
 問合せ先責任者 (役職名) 経営企画部長 (氏名) 松原 浩 TEL 0467-87-2614  
 四半期報告書提出予定日 平成26年8月8日 配当支払開始予定日 —  
 四半期決算補足説明資料作成の有無：無  
 四半期決算説明会開催の有無：無

(百万円未満切捨て)

### 1. 平成27年3月期第1四半期の連結業績（平成26年4月1日～平成26年6月30日）

#### (1) 連結経営成績（累計）

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
27年3月期第1四半期	8,302	△6.5	△1,915	—	△1,990	—	△1,992	—
26年3月期第1四半期	8,884	△4.1	△594	—	△628	—	△670	—

(注) 包括利益 27年3月期第1四半期 △2,021百万円 (—%) 26年3月期第1四半期 △519百万円 (—%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
27年3月期第1四半期	△28.00	—
26年3月期第1四半期	△9.43	—

#### (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
27年3月期第1四半期	92,524	32,727	35.2	458.24
26年3月期	95,752	34,620	36.0	484.69

(参考) 自己資本 27年3月期第1四半期 32,614百万円 26年3月期 34,497百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
26年3月期	—	0.00	—	0.00	0.00
27年3月期	—	—	—	—	—
27年3月期(予想)	—	0.00	—	0.00	0.00

(注) 直前に公表されている配当予想からの修正の有無：無

### 3. 平成27年3月期の連結業績予想（平成26年4月1日～平成27年3月31日）

(%表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期(累計)	15,300	1.5	△4,300	—	△4,500	—	△4,000	—	△56.20
通期	32,600	7.1	△4,000	—	△4,500	—	△4,000	—	△56.20

(注) 直前に公表されている業績予想からの修正の有無：無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）：無

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更：有
- ② ①以外の会計方針の変更：無
- ③ 会計上の見積りの変更：無
- ④ 修正再表示：無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	27年3月期1Q	71,270,910株	26年3月期	71,270,910株
② 期末自己株式数	27年3月期1Q	96,878株	26年3月期	96,876株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	27年3月期1Q	71,174,034株	26年3月期1Q	71,174,251株

※ 四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

・この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期財務諸表のレビュー手続は終了しておりません。

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

（将来に関する記述等についてのご注意）

・本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料3ページに記載の「1. 当四半期決算に関する定性的情報（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

## ○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報 .....	2
(1) 経営成績に関する説明 .....	2
(2) 財政状態に関する説明 .....	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明 .....	3
2. サマリー情報（注記事項）に関する事項 .....	3
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 .....	3
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 .....	3
(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示 .....	3
3. 継続企業の前提に関する重要事象等 .....	3
4. 四半期連結財務諸表 .....	5
(1) 四半期連結貸借対照表 .....	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書 .....	7
四半期連結損益計算書	
第1四半期連結累計期間 .....	7
四半期連結包括利益計算書	
第1四半期連結累計期間 .....	8
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項 .....	9
(継続企業の前提に関する注記) .....	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記) .....	9
(セグメント情報等) .....	9

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

## (1) 経営成績に関する説明

当第1四半期連結累計期間(平成26年4月1日～平成26年6月30日)におけるわが国経済は、消費税増税やエネルギーコストの上昇など、経営環境に影響を与えるリスクは依然として存在するものの、政府が打ち出した経済・金融政策により、その効果も徐々に現れ、緩やかな回復基調で推移してきました。

当社における事業環境については、金属チタン事業が、航空機向けの在庫調整の継続に加え、一般工業用の需要低迷で厳しい状況が継続しております。一方、機能化学品事業は堅調に推移しました。

このような状況下、当第1四半期連結累計期間の売上高は前年同期比6.5%減の83億2百万円となり、経費削減等に取り組んだものの、営業損失19億15百万円、経常損失19億90百万円、四半期純損失19億92百万円となりました。

## 金属チタン事業

スポンジチタンについては、サプライチェーン内における過剰在庫に加え、航空機部品の歩留りの向上、スクラップ使用比率の上昇などの状況もあり、在庫調整が予想を超え1年以上継続している状況にあり、インゴットについても、一般工業用は大型プラント物件等がなく、本格的な回復に至っておりません。

スポンジチタンの稼働率については、生産能力に対し約50%を継続しております。(茅ヶ崎工場は本年4月から生産能力を縮小しており、縮小前の生産能力に対しては約40%の稼働率となります。)

これらの結果、当事業の売上高は前年同期比22.1%減の51億39百万円となり、減産等による影響もあり19億98百万円の営業損失となりました。

## 機能化学品事業

触媒関連製品及び電材関連製品の売上高は、増販及び円安等により前年同期に対し増加いたしました。

これらの結果、当事業の売上高は前年同期比38.5%増の31億63百万円となり、営業利益も前年同期比6.8%増の5億48百万円となりました。

## セグメント別連結売上高

(単位：百万円)

区 分	27年3月期 第1四半期	26年3月期 第1四半期	増減率
金属チタン事業	5,139	6,600	△22.1%
機能化学品事業	3,163	2,284	38.5%
合 計	8,302	8,884	△6.5%

## セグメント別連結営業利益

(単位：百万円)

区 分	27年3月期 第1四半期	26年3月期 第1四半期	増減率
金属チタン事業	△1,998	△645	—
機能化学品事業	548	513	6.8%
全 社 費 用	△466	△462	—
合 計	△1,915	△594	—

## (2) 財政状態に関する説明

## ①資産、負債及び純資産の状況

当第1四半期連結会計期間末における総資産は、売掛債権の増加があったものの、たな卸資産の減少等により、前連結会計年度末比32億27百万円の減少となりました。

負債の部は、長期借入金の約定返済を主因に、前連結会計年度末比13億34百万円の減少となりました。

純資産の部は、利益剰余金の減少等により前連結会計年度末比18億93百万円の減少となりました。以上の結果、自己資本比率は前連結会計年度末の36.0%から35.2%となりました。

## (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

連結業績予想は現時点で入手可能な情報に基づいておりますが、実際の数値は今後様々な要因により、予想数値と異なる可能性があります。なお、連結業績予想につきましては、前回予想(平成26年4月30日)を変更していません。

## 2. サマリー情報(注記事項)に関する事項

## (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

該当事項はありません。

## (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

該当事項はありません。

## (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

会計方針の変更

(退職給付に関する会計基準等の適用)

「退職給付に関する会計基準」(企業会計基準第26号 平成24年5月17日。以下「退職給付会計基準」という。)及び「退職給付に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第25号 平成24年5月17日。以下「退職給付適用指針」という。)を、退職給付会計基準第35項本文および退職給付適用指針第67項本文に掲げられた定めについて当第1四半期連結会計期間より適用し、退職給付債務及び勤務費用の計算方法を見直し、退職給付見込額の期間帰属方法を期間定額基準から給付算定式基準へ変更するとともに、割引率の算定方法を変更しました。

退職給付会計基準等の適用については、退職給付会計基準第37項に定める経過的な取扱いに従って、当第1四半期連結会計期間の期首において、退職給付債務及び勤務費用の計算方法の変更に伴う影響額を利益剰余金に加減しております。

この結果、当第1四半期連結会計期間の期首の退職給付に係る負債が143百万円減少し、利益剰余金が143百万円増加しております。なお、これに伴う当第1四半期連結累計期間の連結損益計算書に与える影響は軽微であります。

## 3. 継続企業の前提に関する重要事象等

当社グループは、前連結会計年度において、売上高が著しく減少しており、その結果、重要な営業損失、経常損失、当期純損失を計上しております。これらにより継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような事象又は状況が存在しておりました。当第1四半期連結累計期間においても、重要な営業損失、経常損失、四半期純損失を計上しており、引き続き継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような事象又は状況が存在しておりますが、当該事象等を解消するため、本年4月30日に発表いたしましたチタン事業構造改革に取り組んでおり、収益改善を進めていく見込みであり、重要な資金繰り懸念もないことから、継続企業の前提に関する重要な不確実性は認められないと判断しております。

チタン事業構造改革の内容は以下の通りであります。

## ・設備効率の改善についての取組み

## ①スポンジチタン

平成25年度末に茅ヶ崎工場において塩化炉2炉操業体制から1炉操業体制に移行し、生産能力を年産13,200tから9,600tに縮小しており、効率的な生産体制の構築を進めております。

## ②チタンインゴット

平成26年度以降、茅ヶ崎工場における一部の設備の休止により、生産能力を年産6,000tから3,000tに縮小しており、同様に効率的な生産体制の構築を進めております。

・コスト圧縮についての取組みと計画

①人員削減

全社全部門の人員の一層の効率的活用を図る観点から平成26年1月1日時点から平成26年度中を目途に全従業員の約15%人員を削減します。

なお、削減人員については、関連会社（合弁会社含む）等への出向・応援、非正規社員の整員等に対応します。

②生産性向上によるコスト削減

チタン製造部門における歩留り改善など生産性向上の徹底追求を図るとともに、全社全部門で徹底したコスト削減を継続して実施します。

## 4. 四半期連結財務諸表

## (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成26年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成26年6月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	2,528	1,816
受取手形及び売掛金	5,511	5,694
商品及び製品	15,686	14,921
仕掛品	4,419	4,165
原材料及び貯蔵品	5,395	4,975
繰延税金資産	50	39
その他	417	273
貸倒引当金	△6	△6
流動資産合計	34,003	31,881
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	15,902	15,687
機械装置及び運搬具(純額)	30,213	29,302
工具、器具及び備品(純額)	323	305
土地	2,679	2,679
リース資産(純額)	5,647	5,368
建設仮勘定	6,429	6,576
有形固定資産合計	61,196	59,919
無形固定資産		
ソフトウェア	163	210
その他	142	133
無形固定資産合計	306	344
投資その他の資産		
投資有価証券	54	189
長期貸付金	4	4
破産更生債権等	2,530	2,530
繰延税金資産	5	5
その他	195	195
貸倒引当金	△2,544	△2,544
投資その他の資産合計	245	379
固定資産合計	61,749	60,643
資産合計	95,752	92,524

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成26年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成26年6月30日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	438	2,076
短期借入金	34,266	36,124
リース債務	1,287	1,193
未払法人税等	101	45
賞与引当金	499	247
役員賞与引当金	1	0
事業撤退損失引当金	230	230
その他	1,130	1,230
流動負債合計	37,955	41,152
固定負債		
長期借入金	16,954	12,798
リース債務	4,610	4,413
退職給付に係る負債	208	34
繰延税金負債	455	444
資産除去債務	948	953
固定負債合計	23,176	18,645
負債合計	61,132	59,797
純資産の部		
株主資本		
資本金	11,963	11,963
資本剰余金	13,022	13,022
利益剰余金	9,213	7,352
自己株式	△75	△75
株主資本合計	34,123	32,262
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	20	27
繰延ヘッジ損益	—	△0
為替換算調整勘定	85	77
退職給付に係る調整累計額	268	247
その他の包括利益累計額合計	373	351
少数株主持分	123	112
純資産合計	34,620	32,727
負債純資産合計	95,752	92,524



## (2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(第1四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年6月30日)
売上高	8,884	8,302
売上原価	8,180	8,868
売上総利益又は売上総損失(△)	703	△566
販売費及び一般管理費	1,298	1,349
営業損失(△)	△594	△1,915
営業外収益		
受取配当金	0	0
為替差益	—	22
デリバティブ利益	72	—
物品売却益	6	8
雑収入	17	12
営業外収益合計	95	44
営業外費用		
支払利息	112	113
為替差損	13	—
支払手数料	0	—
雑損失	3	5
営業外費用合計	129	118
経常損失(△)	△628	△1,990
特別利益		
補助金収入	—	12
特別利益合計	—	12
特別損失		
固定資産除却損	2	0
特別損失合計	2	0
税金等調整前四半期純損失(△)	△631	△1,978
法人税、住民税及び事業税	36	11
法人税等調整額	3	9
法人税等合計	40	21
少数株主損益調整前四半期純損失(△)	△671	△1,999
少数株主損失(△)	△0	△6
四半期純損失(△)	△670	△1,992

(四半期連結包括利益計算書)

(第1四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 平成25年4月1日 至 平成25年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 平成26年4月1日 至 平成26年6月30日)
少数株主損益調整前四半期純損失(△)	△671	△1,999
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	2	7
繰延ヘッジ損益	126	△0
為替換算調整勘定	22	△8
退職給付に係る調整額	—	△20
その他の包括利益合計	152	△21
四半期包括利益	△519	△2,021
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△518	△2,014
少数株主に係る四半期包括利益	△0	△6

## (3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

## 【セグメント情報】

## I 前第1四半期連結累計期間(自平成25年4月1日 至平成25年6月30日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント			調整額 (注1)	四半期連結損益 計算書計上額 (注2)
	金属チタン事業	機能化学品事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	6,600	2,284	8,884	—	8,884
セグメント間の内部売上高又は 振替高	250	1	251	△251	—
計	6,850	2,285	9,136	△251	8,884
セグメント利益又は損失(△)	△645	513	△132	△462	△594

(注) 1.セグメント利益又は損失の調整額△462百万円は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費及び研究開発費であります。

2.セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

## II 当第1四半期連結累計期間(自平成26年4月1日 至平成26年6月30日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント			調整額 (注1)	四半期連結損益 計算書計上額 (注2)
	金属チタン事業	機能化学品事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	5,139	3,163	8,302	—	8,302
セグメント間の内部売上高又は 振替高	255	—	255	△255	—
計	5,395	3,163	8,558	△255	8,302
セグメント利益又は損失(△)	△1,998	548	△1,449	△466	△1,915

(注) 1.セグメント利益又は損失の調整額△466百万円は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費及び研究開発費であります。

2.セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。